

第12号

発行所

大阪市史跡 龍溪禅師墓所  
 靈龜山 九島 禅院  
 〒550 大阪市西区木田 3丁目4-18

発行人

住 職 奥 田 啓 知 (智證)  
 ☎06-582-5772

マインドコントロールと禅  
 自身の主人公になれ



昨年の集団結婚式をはじめ、世界統一教会にからむ出来事が連日のように、テレビのワイドショーの話題になっていきます。桜田淳子さんと共に、結婚式に出席した山崎浩子さんが、同教会を脱会するにあたってのテレビ会見で『マインドコントロール』という言葉を連発されていました。

『マインドコントロール』とは、心を操作するという意味ですが、何時間もビデオテープを見せられ、教義を一方的に吹き込み、思考能力や判断能力を無くさせた上、洗脳する新興宗教の勧誘のやり方をさしています。お姉さんをはじめ、親族の必死の努力で、冷静さを取り戻した彼女は、同教会の勧誘がそのような『マインドコントロール』されたなかで行われたと言うのです。

オーム真理教、幸福の科学、そして世界統一教会と、新興宗教をめぐる話題に事欠きません

が、『マインドコントロール』を手掛かりに、仏教とくに禅の教えを考えてみたいと思います。かつて、フランスのミッテラン大統領に教えを乞われた臨済宗大本山妙心寺の管長であった山田無門大老師は、「人間はほとといても、金じゃ名誉じゃと頭に血が上るものじゃ。昨今の新興宗教は頭に血を上らせてばかりしよる。宗教というものは、ほっといても上る頭の血を下げる働きをせねばならぬ」と言われました。

一昔前までは、新興宗教への入信の動機は、貧・病・争いの三本柱といわれていました。貧しい人が金儲けのために、病気の人が病氣治しを求めて、人間関係のトラブルの解決を期待して、多くの信者が新興宗教の門を叩くのだそうです。文化庁の発表によれば、現在、日本には二億人を超える信者人口があるそうです。

「くしたい」とご利益（りや

く）を求めて、総人口の二倍に近い信者が、あちらこちらの新興宗教の門をたたいているのです。

それら新興宗教の人口は、だいたいにおいて、入信者の人格改造をし、徹底的にその人間の人格を変えてしまうのです。

一口に言えば、入信者を「マインドコントロール」し、「罪人（つみびと）」と意識させるのです。「罪人」を意識すれば、社会にあってもまともには生きていけないから、「罪人」を自覚した人間どうしが集まって、集団で生活するのです。

したがって、これらインチキ新興宗教の信者となった若者たちを、親が無理やりに連れ戻しても、ほとんどの場合、社会に復帰できないのです。

中国・唐代に活躍した臨済義玄禅師は、彼の語録『臨済録』のなかにも、「赤肉団上（しゃく

にくだんじょう)に一無位の真人(しんにん)あり」という一節をのこしています。「赤肉団上」とは生身の肉体のこと、「一無位の真人」とは、世間的な位格(肩書)を持たない真実の人間を意味しますが、この肉体の上に、何ら世間的位格をもたない真実の人間がいると言っています。「一無位の真人」とは「自己」そのものなのです。

私たちは、インチキ新興宗教に「マインドコントロール」されないうめにも、自分自身の発見に努めなければなりません。

大涅槃経のなかで、お釈迦さまの言われた「自灯明・法灯明(自分自身を灯明とし、自分自身をよりどころにしなさい。法を灯明とし、法をよりどころとしなさい)は、灯明となるべき「自己」を確立せよということにほかなりません。

このように、禅の究極、仏法の極意は、つまるところ自己の本心を見届けることです。誰からも「マインドコントロール」されない自己自身を確立することにあります。禅の修

行(坐禅)は、自己自身を「マインドコントロール」し、「父母未生前本来の面目(自分が生まれない前父母さえまだ生まれていない前の自分自身)」「(自己の本性、真実の自己)をつかむことなのです。

道元禅師の『正法眼蔵』の一節にも、「仏道をなろうというのには自己をなろうなり。自己をなろうというは、自己を忘るるなり。自己を忘るるといふは万法に証せらるるなり。万法に証せらるるというは自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり」とあります。

仏道を修行することは本来の自己を知ることです。本来の自己を知るとは表面的な自分を忘れることですが、自分を忘れることができれば、宇宙と一体になれる。そして、それが「悟り」であると説いています。

当院に今回完成した龍燈会館には坐禅堂を設置しました。坐禅会を始めますので、ぜひ、坐禅し、真実の自己(一無位の真人・父母未生前本来の面目)を求めてインナートリップ(心への旅)をしてみませんか

檀信徒の皆さまへ

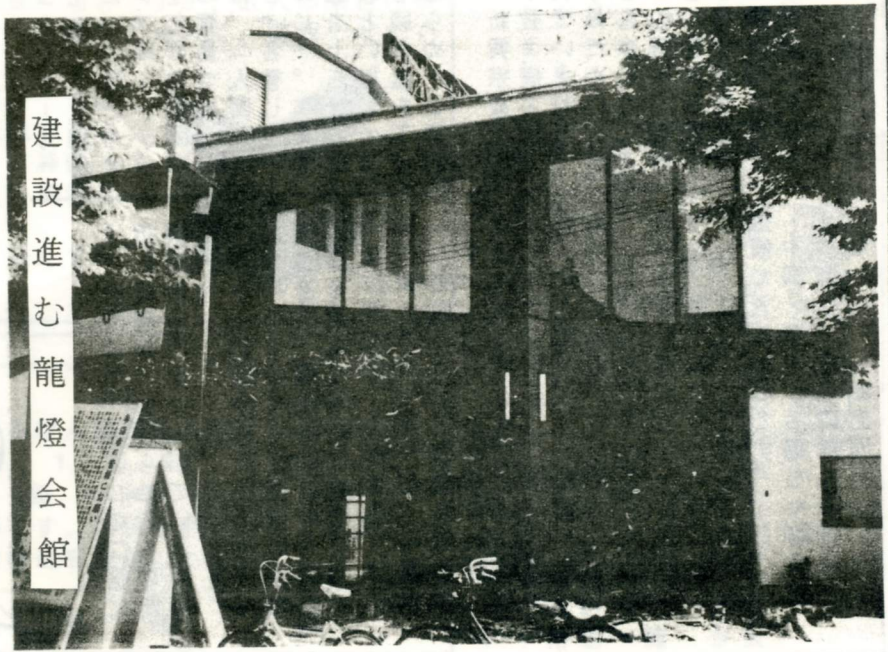
○落慶・晋山式の日程決定  
十月三十一日(日) 厳修

龍燈会館ならびに境内整備  
工事の完成が遅れています。

当初、4月末日を目標に、施工の中山工務店も鋭意努力していただきましたが、「あちらを直せば、こども直さねばいけない」と、工事の規模が

大きくなり、本堂改修及び内外の洗いだし、そして、山門の修復工事にも着手することとなりました。

当院の記録によると、山門は昭和三十九年十二月五日、金百五十七万四千円の総工費で完成したものです。その後昭和五十五年四月二十日、当



建設進む龍燈会館

院檀家池野勇氏の御寄付でペンキ塗り替えをした以降、十年を経過し、この度、調べていただいた結果、コンクリートの表面がところどころ剝離しており、大事をとって凝固剤を注入し補修工事をする事となりました。山門は「お寺の顔」です。この際、思

境内が美しくなることは檀信徒の皆様の喜びであり、

# 布教報告

大本山布教師 服部祖承

春彼岸の結岸の日、久しぶりに九島院にお邪魔をした。布教師として話をするのは今回がはじめてであるが、同じ教区なので今までにしばしば出向いている。ところがこのたびお邪魔して驚いたお寺の景観が一変していることである。

住職は、奥田啓知禅師で、数年前に先代和尚と交替しておられるが、なかなかの努力家である話に聞いてはいたが、住職の積極的なご努力で見違えるようになっていた。

九島院は戦災にあい、本堂も仮本堂(?)であったが、このたび屋根の葺き替えで、すっかり新築のような立派なものによみがえった。境内には大きな観音立像ができ、墓地の整理もなされ、今や檀信徒会館の建築が急ピッチで進行している。やがてこの秋には、落慶式と住職の晋山式が行われる予定である。このように次々とすばらしい発展をみて、感動するとともに心から敬意を表したい。

このためには、先代弘忠和尚の永年の下積みなご精進はもとより、檀信徒の皆様のご協力があったればこそと思う。このようにお寺が復興していく姿をみて、心強いものを感じるとともに僧侶としての自覚を高め、いっそう精進努力をしなければならぬと思うことである。

さて、このたびの布教は、やはり彼岸なので、彼岸の意義から話をすすめた。とくにその中で禅定について述べた。禅定は静慮ともいい、心を静め、じっくりと思慮することである。そのことの大切さを話では、どうすればよいか、そのために坐禅があると。また坐禅に限らず、日常生活の中に、この落ちつきを保つことは、工夫すれば、いつでも、どこでもできるのだということをお話した。

さらに、九島院で今建築中の会館の中に、坐禅堂ができるそうで、これまたすばらしいことである。今後は、この坐禅堂を中心に、檀信徒の皆様がしっかりと禅定の心を培っていただくよう期待したいものである。(中略)最後に、九島院には沢木興道老師がこられて坐禅会が開かれていた。私も参禅したことがあると話した。(後略)

以上、布教の責を果たす。多謝。  
※『黄檗宗報 NO. 365号』

平成5年6月1日付け より抜載

落慶・晋山式の日程決定  
十月三十一日(日)厳修

い切って改修に着手することにし、現在裏側庫裡に転居し、したが、落慶・晋山式の準備が大変遅れています。宗内の寺院方と相談の上、一ヶ月半遅らせて、十月三十一日に落慶・晋山式を厳修することになりました。ご案内状は後日ご郵送致します。

## ○お稚児さん募集

十月三十一日(日)落慶・晋山式には、古式にのっとって、稚児・御寺院方・新命お練り行列にて、入山致します。当院と開基(香西哲雲)が同じで縁があり、同時期に開山致しました竹林寺(浄土宗・西区本田1丁目)様よりご覧下さい。詳細は別紙案内をご覧ください。

## ○山下智玄師が常住に

小納が住職になって以来、お盆の棚経で、毎年お世話にたいていた山下智玄師が、この度、大本山萬福寺宗務本院主事を退職され、当院執事としてお手伝いして頂くこととなりました。旧庫裡に起居し常住でご加担していただきませう。小納と交替でお月参りさせていただきますので、宜しくお願い致します。

## 永代供養位牌 好評受付中

目下、永代供養位牌の過去帳書きに追われています。数に限りがあります。是非、お申込み下さい。冥加金は一位牌十万円です。何霊でもお祀りできます。ご実家のご先祖さま、水子の霊など、日頃おろそかな御霊をお祀りください。

お寺の喜び、誰よりも喜んで御本尊様の喜びです。

奉納抄

坐禅堂の仏具一式寄贈

(平成五年四月)

今般、山根志ずゑ様より『清照院篤山弘順居士』ならびに『山根家先祖代々霊位』のご供養にと、坐禅堂の仏具一式を、ご奉納頂きました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

般若心経謹刻竹竿寄贈

(平成五年五月)

今般、村上節子様より仏説般若心経の刻経された竹製柱掛けが寄贈されました。厚く御礼申し上げます。

達磨画・壁掛け 寄贈

(平成五年三月)

今般、井上初枝様より達磨画を、また小柳馨様より壁掛けが寄贈されました。厚く御礼申し上げます。

編集後記

この度、常駐で勤務されます山下智玄師とは、彼が中学三年生からの長い付き合いで、気心もよく判った間柄です。合いで、『人は石垣、人は城』といひます。龍燈会館の完成、それに、片腕ともいふべき智玄さんと、本当に仏天のご加護の賜物と感謝してゐます。十月三十一日の落慶・晋山式にむかひます。境内をご覧下さい

● 棚経でのこと ○ ● ○

梅雨もあがると、いよいよ『坊主殺し』のお盆の棚経まいりのシーズンがやってきます。毎年このことながら、8月の4日から15日までの約2週間は、俗に言う「盆」と正月がいっしょにやってきた」ような忙しさです。

そんな棚経でのことです。あるお檀家さんをご参ったところ、仏壇正面にしつらえた精霊棚（盆飾り）を前に、小さな坊ちゃんが一心に両手を合わせ拜んでいました。お母さんの話では、「盆飾りのキュウリの馬に乗って、おじいちゃんが帰ってくるのよ」と言ったところ、あおして毎日拜んでいるのだそうです。

昨今は、だんだんと略して、お菓子の盆飾りをお供えているお家が多くなりましたが、一般には八月十三日の朝に、お盆の飾りつけをします。お供え物には、水の子と書いて、水鉢の中に洗米とナスやウリを細かく賽の目にきざんでいれたり、ハスの葉の上に置いたものやオマガラで手足をつくり、キュウリの馬やナスの牛を飾りまします。馬は一刻も早くご先祖さまをお迎えしたいという気持ち、ナスの牛は、お土産をもってゆっくりと霊界にお帰り下さいという心を示しています。

クリスマスにサンタクロースの到来を、心待ちにする子供たちは多いものですが、両手を合わせ、けなげな坊ちゃんを見て、亡くなったおじいちゃんも、きっと喜んでおられることだと思います。

故人を忍ぶ風習の一つに、満中陰の『中陰の餅、傘（かさ）の餅』の習わしがあります。傘の餅をひと型に切って、参拝者とともに食べるのですが、故人の来世の幸せを祈る心が、そのような風習となって、関西では広く行われています。

それらやお盆のお飾り一つ一つをとっても、ご先祖さまへの感謝の心が伝わり、詩情豊かなわが国ならではの風習です。

これからも、末永く伝えて生きたいものです。



水 灯 会

(うらぼん施餓鬼法要)

8月19日(木)

午後1時半より

ご先祖供養です。宗旨に関係ありません。ご回向のお申込をお願いします。

法 話 ・ 住 職

ご案内